

あきのやま  
秋山〔小枝橋半町ばかり南にして、茶店の向ふなり。鳥羽法皇城南離宮を営給ひし時、四季の風景をつくり、紅葉を

多く植させ給ふ所を秋の山といふ、今纔の岡山遣れり〕

続後拾 充うつ鳥羽田の里の稲筵いくよになりぬ秋の山かぜ

俊 光

新続古 夕日さす秋の山本霧はれて鳥羽田の稲葉露にみだるゝ

等 持 院